

2025年10月（年4回発行）



利用者の皆さん、地域の皆さんへお願いします。
賛助会員（年会費3,000円）になって、事業所の環境整備と会の社会貢献活動などを応援してください。

（窓口は各施設長へ、ご寄付は寄付金控除の対象で約50%が控除になります）
＊寄付金は何に使われるの？
・なかまの杜は3～4年後に大規模修繕を予定
・ムーミン保育園も大規模修繕を検討中
・2026年度、春より開設予定
「ふらっとムーミンの家」
〔なかま食堂・みんなの居場所 不登校等対策・各種相談活動など〕
＊賛助会員になると会の事業のボランティア活動ができます。一緒に社会課題に取り組みませんか。また、ご要望などありましたらお気軽にお聞かせください。

9年前の子ども食堂

理事長から

〈未だに、週に何度も食べれない子がいる〉ことにショックを受け開所した、〈なかま食堂〉。9年間の経過でそれが〈誰でも食堂〉になり、今は月2回。毎月の利用者が100名を超えている。来春は食を仲立ちに、いろんな人の〈嬉し・楽しの集いの居場所〉として〈ふらっとムーミンの家〉が新生することになる。私たちの願い…それは子育てのプロ目指して腕磨く。そして地域と直に顔合わせ〈地域のなかま〉として心を通わせ信頼関係を紡いで行くこと。（中川節男）

今年度は、NPO（特定非営利活動）法人ムーミンの会が誕生して20年の節目。そして、認定NPO法人となって7年になります。

認定をとるということは、地域の賛同と社会貢献度や認知度の高さを示すもので、定期的な審査と監査があり、100名以上の賛助会員や寄付者がいることが法的必要条件です。

これまで、会の施設を利用されているご家庭や非常勤職員の賛助会費納入によって、あるいは子ども食堂などに対して寄付してくださる方々の寄付で何とか**100名かつ3000円以上の条件**をクリアしてきました。

しかし、ここ数年間、賛助会員の数が減少にあります。コロナの発生以来世界情勢の不安、日本経済の低迷、相次ぐ物価高騰などのなか、法人事業所同様、どのご家庭も厳しい家計をやりくりしている実情があります。

そうしたなか当法人では、金融機関の借金返済や家賃・地代に多額の支払いをしていること、一方で法人の「生体の生活のリズムと発達と脳の科学」を学びながら、どの子であってもその発達の可能性に確信をもち、献身的な努力をしている保育士と支えてくださる多くのご家庭があることを、施設利用者の皆さんと地域社会に発信する必要を痛感し、機関紙を発刊いたします。

これを機に、未加入の皆さんにもご理解をいただき、賛助会員として会費納入をお願いしたいと思います。（文責 相馬範子）

子育ての科学に基づき ヒトとしての生体の生活リズムを守り育て 子どもの発達を保障する保育の実践

【ムーミンの会 運営施設】

子ども子育て支援複合施設

なかまの杜

ムーミンの会 本部

認可保育所 ろぜっと保育園

障がい児通所支援事業 つむぎ子ども教室

児童発達支援・放課後等デイサービス

障がい児相談 つむぎ相談支援事業所

なないろ学童クラブ

第二子ども子育て支援複合施設

ともだちの山

認可保育所 あそびの杜保育園 分園

障がい児通所支援事業

多機能型事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス）

つむぎ子ども教室 II

陽だまり学童クラブ

認定 NPO 法人ムーミンの会 HP

<http://moomin-asobi.org/>

重身医療ケア児保育特設 HP

<https://moomin-care.org/>

障がい児通所支援事業

つむぎ子ども教室

久保町教室・南浅間町教室

認可保育所

ムーミン保育園

認可保育所

あそびの杜保育園

本園

ムーミンなかま食堂

ご支援募集中



ムーミン保育園



0～2歳児が利用できる無認可の「ムーミン乳児保育園」が誕生してから、半世紀近くが経ちました。その後、幼児も利用できる「ムーミン保育園」に発展し、2014年に久保町から南浅間町に移転して、定員60名の認可保育園となりました。今年で開園12年目を迎え、あちらこちら改修しており、今までに行った大きな工事は玄関前のスロープ設置工事です。今後は屋上のメンテナンスや保育室の床張り替えなども必要になってくると思います。



定員外に、
1・2歳児の年度限定保育
も実施していて、毎年数名の
お子さんが利用しています。



そして昨年度から「一時保育」と「子育て支援」を開始し、多くの親子が来てくれています。子育て世帯対象に2歳までに一時保育が24時間分利用できる「お預かり券」が配布されていることも大きいのか、0、1歳児のお子さんが多く来園されています。また、夏のプールや朝散歩、保護者向けの食育学習会に参加された方もいて、地域の子育てに関わっている、と感じています。



今月から運動会や4、5歳児のお泊り保育、成長を祝う会などの行事が続きます。子どもたち、職員たちと一緒に思いきり楽しみたいと思います。



(文責 佐々木悦子)

ろぜっと保育園

<文責：武谷真未>

ろぜっと保育園は子ども子育て複合施設“なかまの杜”の中にある保育園です。開所して11年目を迎えます。障害や発達の遅れ、医療的ケアがあるお子さんを保育士、看護師、作業療法士、調理士や同じ建物内にある児童発達支援「つむぎ子ども教室」が連携し合い、保育を行っています。

先日運動会が終わり、今年度もあっという間に半分が過ぎたなあと実感しています。

ろぜっと保育園では色々な生き物を飼っていますが、今年初めて“蚕”を育てました。ゴマより小さな卵から繭になるまでの間を職員と子ども達とで一生懸命育てました。「気持ち悪い！」と言っていた人も、いつの間にか大事に育ててくれました。

生き物は人の心を変える…



繭で何を作ろうかなあ…と悩み中。←

「ろぜっと」とは・・・円錐上に根を張り、またそれを逆さにした形状を末広がり広げていく状態を示す形容を言います

こんにちは😊 あそびの杜保育園です



乳児棟（本園）

あそびの杜保育園は、ムーミンの会で最初にできた認可保育園です。最初は 35 名しかいない小さな保育園でした。



「子ども達にもっと広い場所を」

幼児棟（分園）

そんな思いから、2022 年、郵便局の建物をお借りして、分園（幼児棟 45 名）をつくり、もともとの建物を本園（乳児棟 24 名）として、あわせて 69 名定員というにぎやかな保育園に生まれ変わりました。



幼児棟の屋上

本園となった乳児棟は、2006 年開所のため、建物がずいぶん古くなりました。開所から約 20 年。



乳児棟は「赤ちゃんの保育園」として小さな子どもたちが安全に過ごせるようにと、分園が開所した年から、毎年改修工事を行っています。自慢は乳児棟の屋上です。赤ちゃんたちがそのまま這っても歩いても、安全でフワフワふさふさの人工芝になりました。

保育園の改修工事は大きなお金がかかりますが、とても必要なことです。皆さんからの賛助会費は、このような改修工事の一部に充てています。

あそびの杜保育園では絵本のある保育・子育てに取り組んでいます



ホームページには、子ども達が毎月楽しんでいる月間絵本を紹介した「えほんだより」と、親子で読んでほしい「おすすめえほん」を載せています

(文責 杉浦昌代)

「卒園後はどうなる？」そんな10人の保護者の声が集まって、放課後児童健全育成事業を立ち上げました。命名も保護者です。

陽だまり学童クラブ

昨年、西区政80周年を記念し一年を通じて数多くの記念事業が実施され、子どもたちと大いに出かけました。「西区今昔かるた」にもその中で去年出会いました。かるたあそびを楽しむと共に、みんなで絵札の写真の地巡りと称して散歩したり、イベントに参加したりすることが“私たちの地域”を知るとても良い学びの場となっています。また、関係者や地域ボランティアさんとの交流の活性もクラブにとっても子どもたちにとっても、とても良い経験となっています。

今夏、担当課よりお誘いを受けて、市役所アトリウムで開催された「西区今昔かるたフェスティバル」に参加してきました。もう顔見知りのスタッフの方々と子どもたちも笑顔です。でっかるたという大きな札を駆け回って取る。クラブ内ではできないイベントです。

楽しむことが第一でありながら、地域を学び、また盛り上げることのできるイベントへ参加できることを非常にうれしく思います。すでに来年の日程も知らせていただきました。

学童クラブの質が充実し、地域社会の活動が充実するような活動を今後も続けていきたいと思っています。(文責 本落和紀)



つむぎ子ども教室・つむぎ子ども教室Ⅱ 児童発達支援です！

つむぎ子ども教室は2013年から開所しました。2025年現在、障害児の通所事業所の一つ児童発達は、複合施設（なかまの杜・ともだちの山）と南浅間の施設の計3か所で行っています。



なかまの杜3F



ともだちの山2F



マックビル1F

保育園からドア1枚、階段下りれば、歩いてすぐ！の近さから、保育園の子ども達も多く利用しています。少人数や個別で、子ども達の発達に合わせた「できること」をたくさん発見し、自信につなげていきます。

月に1回程度は親子イベントを開催。先日の「**つむぎ体操・運動遊び・感触遊び親子イベント**」では普段の療育を知ってもらいたい、そして各家庭でも実践できるようにと一緒に楽しみました。子ども達は普段通りでニコニコご機嫌。最後は豪快に「**寒天・ゼリー感触遊び**」。家ではなかなかできない感触遊びに大はしゃぎ！みんなで大喜びで全身カラフルな寒天まみれになりました！

子どもの療育の場、そして保護者の交流の場・相談できる場所として、つむぎ・Ⅱには様々な想いがつまっています。

（文責：渡邊美恵子）



《つむぎ相談支援事業所》



当法人の中でもっとも規模の小さい事業、つむぎ相談支援事業所です。2020年2月に3人の相談員でスタートし、6年目に入っています。

「山椒は小粒でもピリリと辛い」のことわざがありますが、文字通り相談事業は(小さくても)福祉・子育て支援に必要不可欠な存在。当事業所は主につむぎに通う子どもたち(児発・放デイ)とその家族との伴走に努めています！

相談員は、プラン作成のため“**じっくりと話を聞くこと(傾聴)**”、ことばでうまく話せない子どもの思いを感じ取る“**意思決定支援**”を重視しています。書類作成だけでなく、関係機関や支援員とつながり、身近な地域で安心して通える・使える社会資源発掘にも取り組みます。**障害のある子どもや家族が、地域で楽しく安心して過ごすために、当法人が取り組んでいるインクルージョンの考えがまさに社会資源の一つになっています。**

本人の理解と支援の輪を広げていく必要性など、相談員へのニーズは高く、現体制ではその全てに応ずることが難しいのが悩みです。そのためにも引き続き、法人の理解・支援が必要で、さらに長期的ビジョンを描いていかなければと思います。（文責：官林祐治）

《つむぎ子ども教室 放課後等デイサービス》

横浜市中で、特別支援学校や地域の学校の支援級に通う子どもを中心に、放課後楽しく過ごす場所として放課後等デイサービスができたのが12年前。つむぎ子ども教室の放デイも、そこからスタートしました！現在、小学1年生から高校3年生という幅広い年齢の子どもが通所しています。

10月4日(土)、子どもたちは地域の“福祉フェスタ”に参加してきました。日頃の活動で練習してきたダンスを披露し、作りためた作品も展示。職員と一緒にゲームコーナーを手伝う子もいました。どの顔からも笑顔が溢れ、楽しいお祭りになりました。

同日の午後は“**つむぎOB会**”をなかまの杜にておこないました。10年前に卒業した1期生から、社会人半年のルーキーまで、懐かしい顔がたくさん集まりました。皆のいきいきとしたお話を聞いて、盛り上がりました！年に1度の会ですが、卒業生とも連絡を取り合っています。

放デイは遊び・学ぶ場であると同時に、生活の一部として子どもたちに必要な生活力・体力・社会性を育てる場所です。今回のような行事を通して、職員と**楽しい思いを共有しています**。子どもたちの活動の様子を、これからもお伝えしたいと思います！（文責：大町真弓）



《なないろ学童クラブ》

なないろ学童は10年前、なかまの杜4階に児童20人でスタートし、現在、小学1～6年生34人が在籍し、にぎやかな日々を送っています。

「子ども達や職員が交流・連携し、発達を切れ目なく保障し、みんなで楽しめる場所」なかまの杜をそんな場所にしたかったと思いますが、ちがう職種がどんな活動を行っているのか、どんな苦労があるのか…お互いの理解から始まり、交流・連携をどうやって行うか試行錯誤の日々でした。

10年経った今、お隣のつむぎとは「一緒に遊ばない？」と声を掛け合う子ども達の声がよく聞かれるようになり、8月にはなかまの杜コンサートを開催。地域の方も招待しました。学童の子が保育園の子どもたちに工作を教えたり、ホールで一緒に遊ぶ日もあります。



子どもの発達を考えてるからこそ、職種を超えた話し合いも増えました。今日もなかまの杜では子ども達の笑顔がたくさんあふれています。（文責：酒井恵梨佳）

※ 2025年度10月現在のムーミンの会の賛助会員は、**まだ100名に届かず約80名ほどです。**
是非保護者の皆さんの入会を お待ちしています。ご協力お願いします。